

概要書 「イタセンバラの勉強会」について

「イタセンバラ」は、日本固有のコイ科の淡水魚で、二枚貝に卵を産むタナゴの仲間です。本種は国の天然記念物、また国内希少野生動植物種に指定されている希少種です。

イタセンバラは現在、淀川、木曽川、富山平野の3地域のごく限られた場所にしか生息しておらず、生息環境の変化や、密漁などの人為的な影響もあって個体数が減少傾向にあり、絶滅が危惧されています。

「木曽川水系イタセンバラ保護協議会」（地域の学識経験者や行政機関等で構成、概要下記）では、イタセンバラの生態などを地域の方々などに御理解いただき、連携した取組を進めていくことを目的として、毎年「イタセンバラの勉強会」を開催しております。

第16回となる今年の勉強会では、座学によるイタセンバラの勉強会を企画いたしました。

環境省より木曽川のイタセンバラの保護活動と希少種の再導入の取り組みについて、国土交通省から木曽川での生息地の環境整備等の取り組みについて説明します。また、アクア・トトぎふの池谷館長より域外保全施設での保護増殖事業について、淀川水系イタセンバラ研究会・環境省希少野生動植物種保存推進員の河合氏より淀川での環境の変遷とイタセンバラの保全活動に関する取り組みについて紹介します。

木曽川の宝である「イタセンバラ」について勉強でき、イタセンバラを観察できる貴重な機会ですので、ぜひ御参加ください。

なお、参加にあたっては事前の申込みが必要です。

参加者募集チラシ裏面の参加申込書（本資料の最終ページ掲載）により、応募してください。

＜ 木曽川水系イタセンバラ保護協議会（H22.3.9 設立、H30.3.5 改正、R7.3.7 改定）の概要 ＞

木曽川水系のイタセンバラ保護のため、学識経験者、関係機関及び地域住民が協働して、下記の活動を行っております。

【活動内容】

- 1) イタセンバラの密漁対策
- 2) 希少種に関する啓発活動
- 3) 希少種に関する環境教育活動
- 4) イタセンバラの生息環境改善のための対策とそれに関する調査・計画の立案
- 5) イタセンバラの生息域外保全に関すること
- 6) イタセンバラの野生復帰に関すること
- 7) その他関連する事項

【構成機関】

学識経験者：池谷 幸樹（世界淡水魚園水族館）、北村 淳一（三重県総合博物館）、久保 禎子（一宮市 活力創造部 博物館管理課）、永山 滋也（長野大学 共創情報学部）、森 誠一（岐阜協立大学 地域創生研究所）、森 照貴（土木研究所 自然共生研究センター）、山崎 裕治（富山大学）

関係機関：文化庁文化財第二課、愛知県（自然環境課、文化芸術課 文化財室）、愛知県警察本部 生活経済課、岐阜県（環境生活政策課、文化伝承課、水産研究所）、岐阜県警察本部生活環境課、一宮市博物館、羽島市生涯学習課、碧南市碧南海浜水族館、名古屋市東山動植物園、世界淡水魚園水族館

事務局：環境省中部地方環境事務所野生生物課、国土交通省中部地方整備局河川部河川環境課、国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所